隔月誌（平成31年3月発行）

かなえるリハビリ訪問看護ステーション

かなえるレター

KANAERU LETTER

vol.36
2019



今号の表紙

歩行訓練

ご自身の身体状況を日々チェックされる礒尾様。
治療を受けられる身体を目指し、日々運動を行っています。
大きな目標に向かって努力される姿は強い意志と意欲を感じます。

担当：理学療法士　鎗丸

かなえる TOPIC-01

第4回「かなえる勉強会」開催

株式会社かなえるリンク
教育研修課 課長　門田 淳志

2月17日(日)、心斎橋で社内外問わず地域の療法士に向けて「第4回かなえる勉強会」を開催しました。参加者は約120名で、関西の療法士を中心に参加していただきました。

講師に静岡県立こども病院の作業療法士、鴨下賢一先生をお招きし、発達障がいに対する『生活動作の考え方』と『具体的アプローチの方法』をテーマに約3時間のご講義をいただきました。発達障がいのお子様には多様な個性があり、『認知・運動・発達・コミュニケーション・感覚』などの問題を考えて特徴に合わせた対応をする必要があります。食事の動作では、スプーンや箸の持ち方・使い方に注目し改善するだけでなく、ごはんをあまり噛まない、口に詰め込む・流し込むなどの「食べ方」を見直すことも重要であるというお話でした。



また、参加者がホースを使用したT字グリップのスプーン(自助具)を作成し、対象者への支援の方法を学ぶことができました。

今後も勉強会を通して、対象者・地域に貢献できるように多職種で連携を深め、弊社事業も推進していきます。

かなえる TOPIC-02

自助具の個別性に対応「3Dプリンター」を導入

株式会社かなえるリンク
広報課 課長　川口 智之

3Dプリンターは、技術の進歩と共に小型化・低価格化され、教育現場や家庭にも活用の場が広がる身近な道具になりつつあります。3Dプリンターから射出される造形用材料の種類も豊富で、形状、大きさ、硬さ、素材と多種多様な造形が可能になりました。医療・福祉分野では義歯や義肢装具の製作で利用され始めています。



3Dプリンター



3Dプリンターで製作した自助具

当ステーションでは、ご利用者の個別性や状態変化に対応できる自助具の製作を目的として3Dプリンターを導入しました。

今後、自助具のニーズや課題を把握し、ご利用者と共にアイデアを形にするなど、試作・試用を重ねていけたらと思います。発想を豊かに持ち、ご利用者の自立を支援するために活用していきます。

2019年の5月1日、現在の皇太子徳仁親王が即位し、新しい元号の時代が始まります。「平成」の名前の由来は、「国の内外、天地とも平和が達成される」という意味が込められているそうです。どのような意味が込められた新元号になるのかとても楽しみです。翌年の2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。今後数年の間に日本の歴史に新たな1ページが刻まれる出来事が多く予定されており、『日本がどのように変わっていくのか』を楽しみたいです。



広報課　川口 智之

かなえるリハビリ訪問看護ステーション
〒550-0015
大阪府大阪市西区
南堀江1-16-15
名城ビル4階D号室
TEL 06-6531-3500
FAX 06-6531-3510

ご利用者数（H31/2/18 時点）
介護保険…　917名
医療保険…　459名
その他　…　9名
計　1,385名（社員数112名）

かなえるリハビリ訪問看護ステーション河内長野
〒586-0048
大阪府河内長野市
三日市町240-1
三日市グリーンハイツ103号室
TEL 0721-63-3355
FAX 0721-63-3377

ご利用者数（H31/2/18 時点）
介護保険…　144名
医療保険…　56名
その他　…　1名
計　201名（社員数20名）

かなえるリハビリ訪問看護ステーション都
〒604-8375
京都府京都市中京区
西ノ京池ノ内町19-11
御池KSビル202号室
TEL 075-803-0536
FAX 075-803-0537

ご利用者数（H31/2/18 時点）
介護保険…　219名
医療保険…　64名
その他　…　0名
計　283名（社員数21名）

ご利用者からの”投稿募集”



かなえるレターではご利用者の投稿を募集しています。あなたの作品をこの紙面で発表してみませんか？詳細は郵送、FAX、メール、または訪問スタッフまでお問い合わせください。あなたの投稿をお待ちしています。

かなえるリンク　検索

看護 豆知識

冬でも「脱水症状」に注意！

冬は、空気が乾燥し、さらに機密性の高い室内でエアコンなどの暖房器具を使用すると湿度が下がります。乾燥した環境では、特に自覚がないまま皮膚や粘膜、あるいは吐く息から、水分が失われる「不感蒸泄（ふかんじょうせつ）」が増えていきます。汗を意識しない冬は水分を失っている自覚が少なく警戒心も下がり、夏場に比べ水分の摂取が減り、水分不足を引き起こす可能性がありますのでご注意ください。



看護師
和田（わだ） 将吾（しょうご）

脱水症状のサイン

- ☑ 口の中がネバネバする
- ☑ 体がだるくなり、やる気や活力が低下する
- ☑ めまいや立ちくらみが起こる
- ☑ 手先などの皮膚がカサカサ（乾燥）する

簡単な脱水の評価方法「ツルゴール検査」



①手の甲を軽くつまみます
②つまんだ皮膚のもどりをみます（2秒間）
③2秒でもどらない場合は脱水に注意

脱水症状を防ぐには

①室内の湿度を50～60%前後にキープする
（加湿器の適切な使用）

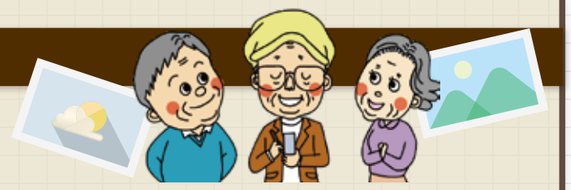
②換気を定期的に行う

③室内の照明を発熱量の少ないLEDに変えることで室内の乾燥を防ぐ

④こまめな水分補給
（寝る前のコップ一杯の水、経口補水液の摂取）

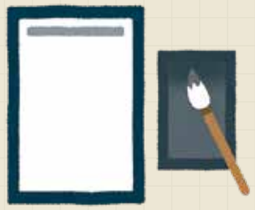
注意!! ※体に異変を感じたら、すぐに経口補水液などの水分を摂取し、改善しない場合は、そのままにせずかかりつけ医や近医を受診しましょう。

ご利用者「投稿コーナー」

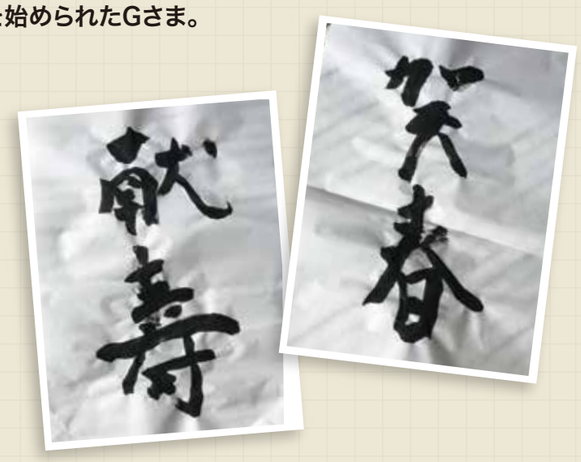


作品 「書道」

新しく何かに挑戦したい！とのことで書道を始められたGさま。
堂々とした筆使いがとても素敵です。

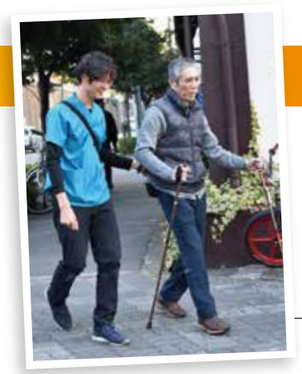


大阪市
60代 女性
Gさま



担当: 作業療法士　久保

※あなたの作品をこの紙面で発表してみませんか?
詳細は郵送、FAX、メール、または訪問スタッフまでお問い合わせください。あなたの投稿をお待ちしています。



― ご利用者とともに ―

治癒させる療法が確立する「その時」のために

理学療法士　鎗丸

礒尾さまは、現在70歳
物知りで、いつも色んなお話をしてくださる博学で優しい方です

「訪問リハビリ」を開始

礒尾さまは、お仕事に加えて趣味である考古学のフィールドワークや各地への旅行など、精力的に活動されていました。

昨年5月、70歳で退職され活動量が減少したこともあり肺炎予防や体力向上を目的に同年6月より、当ステーションの訪問リハビリをご利用いただいています。

「パーキンソン病」における療法

パーキンソン病と診断されたのは55歳の頃。日常生活の中、歩行速度の低下から症状が見られ始めたそうです。礒尾さまの状態は年を追うごとに進行し、一昨年の誤嚥性肺炎発症直前には薬の効きも悪く、座ることも困難な状態だったそうです。

また、誤嚥性肺炎を発症するに至ったことから、平成29年9月に主治医の勧めで、胃ろうを利用したパーキンソン病に対する薬物療法『デュオドーパ療法』を開始されました。安定したお薬の投与を継続することで、ご家族も驚くほど症状の改善が見られたそうです。

「iPS細胞」を用いた治療実験

昨年7月、iPS細胞を用いたパーキンソン病の治療実験が京都大学医学部附属病院で開始されたと報じられました。その報を受け、礒尾さまは「治癒させる療法が確立した時、その療法に対応できる身体状態を確保しておきたい。完治する可能性があるのに体力が追いつかず、治療を受けることができないなんて勿体ない！」と大きな目標が明確になりました。また、その頃から体力向上を目的に『ウォーキングポール』を使用するなど、積極的に屋外歩行の訓練に励まれ、礒尾さまの強い想いと活動意欲の向上を感じました。



屋外歩行訓練の様子

「最終目標」に向けての様々な課題

昨年10月、礒尾さまの前々職のお勤め先より表彰を受けることになり、一ヶ月後、東京で開かれる会合に参加されることになりました。会合までの一ヶ月間、上京を目標とした訓練に注力されたことで、歩行・体力ともに向上し、目標を無事に達成されました。

今後も、最終目標に向け新たな課題が出てくると思いますが、その時々にできる工夫を提案し、話し合い、礒尾さまとご家族のご希望に寄り添いながら支援を継続していきたいと思っています。

（理学療法士　鎗丸）

▶H12	パーキンソン病発症
▶H29.6月・8月	誤嚥性肺炎を発症
▶H29.9月	デュオドーパ療法を導入
▶H30.1月	左大腿骨頸部骨折受傷
▶H30.6月	訪問リハビリを開始